INMP 通信 No. 29

December 2019

編集: 安斎育郎、山根和代

翻訳者: 赤松敦子、狩俣英美、山本美穂子、山根和代

International Network of
Museums for Peace

ジュネーブ国連博物館での展示：「ジュネーブにおける多国間主義の 100 年」

第一次世界大戦終結後、1919 年に国際連盟が設立され、その本部は 1920 年にジュネーブに置かれました。それ以来の 100 年でジュネーブの街において、他にも多くの国際機関や団体が設立され、数多くの国際会議が開催され、条約が締結されてきました。このようなこの街での活動がジュネーブ国連博物館（1946 年以来国際連合欧州本部となっている「パレ・デ・ナシオン」図書館棟）での「ジュネーブにおける多国間主義の１００年」という展示において特集されています。この百年祭は 2019 年 4 月 24 日（平和のための多国間主義と外交の国際記念日）から開催され、2020 年 11 月 15 日（国際連盟の第一回会議が開催された記念日）に終了します。この展示に出されている写真、文書、書籍、書簡、ポスターなどの画像（それぞれ拡大可能）のギャラリーがこちらで閲覧できます。here

同時に、ジュネーブは 2020 年に国連 75 周年も祝います。この記念日を迎えるにあたり、国連は、私たちが欲する未来を建設するときに世界的な協力がどのような役割を持つかということに関する過去最大の世界的な対話を始めています。国連事務総長アントニオ・グテーレスによるこの対話への参加の呼びかけを含む短いビデオ（5 分）をこちらで見ることができます。click here

「天球」

2 番目の関連展示が、「戦争と平和」という題で、2019 年 10 月 5 日から 2020 年 3 月 1 日まで、マルタン・ボドメール財団において開催されています。この展示は、人類の、交戦状態と平和を求める深い欲求との間の絶え間のない対話を来場者が理解するのを助けることを目的としています。この展示は 3 つの

主題の下に構成されています。その主題とは戦争の起源、戦争による破壊、平和への欲求です。そこに示されている語りと文献は芸術、文学、宗教、哲学、法律、政治から引用されています。この財団 The Foundation は文字が発明されて以来の文明の歴史に関する博物館と世界中から集められた貴重な書籍や写本の有名な図書館を構成しています。

3 番目の展示は「記録―『赤十字国際レビュー』の 150 年」 で、これは国際的な人道主義の法・政策・活動に捧げられた世界最古の出版物である英文季刊誌『赤十字国際レビュー』(1869 年創立)の出版 150 周年を祝うものです。この展示は、2019 年 10 月 30 日から 2020 年 4 月 30 日まで、赤十字国際委員会の「ヒューマニタリアム」という会場で対話と行事のために開催されます。この展示は、過去 150 年間に渡る、武力闘争に関する国際法普及の進歩と、人道主義的対応における革新に、『赤十字国際レビュー』が果たしてきた役割に焦点を当てています。この展示への来場者は、豊かな歴史を形成している 110,000 ページ以上になる『赤十字国際レビュー』の世界を探求することができます。以上の 3 つの展示の概要はこちらで読むことができます。go here, here, here

United Nations museum Geneva

行事予定表はこちらをご覧ください。click here

行事の一つは、修復された「天球」の彫像の公開で、2020 年 3 月 1 日に行われる予定です。この美しい芸術作品（アメリカ合衆国の芸術家ポール・H・マンシップ作）は 1939 年の除幕式以来、「パレ・デ・ナシオン」前の公園を飾ってきました。そして 1946 年からはジュネーブの国連の象徴になりました。こちらにより多くの情報があります。go here （「ジュネーブの人道主義の道」について以下の記事もご覧ください。）

UN75 2020 AND BEYOND

ジュネーブの国際赤十字赤新月社博物館

ジュネーブにある国際赤十字赤新月社博物館は「包みから取り出されたポスター」という題の展示で世界中から集めたポスターの豊かなコレクションの中から選りすぐりのポスターを展示しています。この博物館は 1988 年に開館して以来ポスターを収集してきました。現在、1 万点以上のポスターを所蔵しています。その収集されたポスターには、古いものでは 1866 年に作成されたものもあります。多くは各国の赤十字社と赤新月社から取得されたか、寄贈されたものです。そのポスターは幅広いメッセージを大衆に伝えるためにデザインされました。

例えば献血の呼びかけや病気の予防、自然災害や戦争への緊急の対応、適切な衛生の奨励、応急処置訓練、募金、ボランティア募集などのメッセージです。行動を呼びかけるためのものもありますし、危険を警告するもの、情報を提供するもの、人道的主張もあります。この特別展は 2019 年 10 月 2 日から 2020 年 1 月 26 日まで開催されます。

この展示についての本も出版されています。「ポスター：国際赤十字社と赤新月社博物館コレクション」（イタリア・ロンバルディア州ミラノ県のチニゼッロ・バルサモにあるシルヴァーナ・エディトリアーレ社から出版されています）こちらにより多くの情報があります。go here here

12 月 9 日から 12 日までジュネーブで開かれた赤十字社と赤新月社の第 33 回国際会議に際して、素晴らしい美しい写真の入った 29 ページの『ジュネーブの人道主義の道』が出版されました。この道は歴史上に数多く現れる画期的な出来事の起きた場所を歩いて辿ることを特色とする屋外博物館のようなものです。その一つのルートは「人道主義の遺産」と名付けられていますが、湖の東岸の古い町の１４の画期的な出来事が起きた場所について取り上げています。二つ目は「人道主義の旅」というルートで、湖の右岸のジュネーブの中で国際的な地域にある 5 つの場所を取り上げています。この道は 12 月 4 日から 12 日まで提供されています。この道に沿って様々な場所でビデオを見られるようになっています。パンフレットを補足、またはその代わりとなるインタラクティブ・デジタル地図がスマートフォンやタブレットで利用可能です。タブレットはこの街の観光案内所で引き続き利用が可能となる予定です。そのプログラムはこちらからダウンロードできます。here　また、こちらのリンクで this link（地図だけでなく）その国際会議 Conference website の情報を見ることができます。this link

スコットランドダンファームリンの アンドリュー・カーネギー 生誕地博物館

アンドリュー・カーネギー(1835-1919)はスコットランド系アメリカ人で製鉄王でしたが、かつては世界で最も多くの財産を築いた人でした。今日では彼は近代の慈善事業の父とみなされています。（ビル・ゲイツにも影響を与えています）平和慈善事業家として彼に並ぶものはありません。彼は織工の息子としてダンファームリン（エディンバラの北の町）の小さな粗末な家で生まれました。よりよい生活を求めてその家族は 1848 年にペンシルバニアにやってきました。そしてカーネギーは大企業家として大成功を収めたのです。1901 年に彼は世界最大の製鉄会社、カーネギー製鉄を 4 億 8 千ドル（現在の 140 億ドル以上）で売って、世界一の大金持ちになりました。「金持ちのままで死ぬ人は不名誉な死を迎える」という彼の言葉は有名ですが、彼はその残りの人生をその富の 90%を寄付することに費やしました。そしてそのかなりの部分を世界平和の促進のために使いました。若い時からすでにアンドリュー・カーネギーは自分自身を平和主義者で国際主義者であるとみなしていました。1914 年以前には、4 つの信託財産または基金を寄付していました。そして、ハーグにある平和の宮殿を含む三つの「平和の神殿」の建設に資金を出しました。それらは調停と国際法が戦争を廃止するための最善の手段であるという彼の固い信念を形あるものとして表現したものでした。彼は戦争を「私たちの文明における最悪の汚点」と呼んでいました。

アンドリュー・カーネギーの生家は、（彼の家族はその中の一室に住んでいたのですが）1770 年代に建てられたもので、1840 年代の彼の子ども時代の家の様子を再現するように修復されています。

その家は、1908 年に一般公開され、彼の家族がアメリカ合衆国に移民として渡る前の話を伝えています。

数多くの貴重な実物の遺物と共に、毛織物仕上げ工だった彼の父の物語が生家の隣の記念ホールで語られます。その建設は 1919 年にカーネギーが亡くなった後にアンドリューの妻であったルイーズ・カーネギーによって提案されました。彼女は 1928 年に開館式が行われたそのホールを寄贈しました。そのホールは彼女の夫の華々しい実業家としての経歴を示し、彼の途方もない規模の慈善事業に関する文書を展示しています。その慈善事業には博物館、コンサートホール、大学、2800 の公立図書館（その最初の図書館は彼の生まれた故郷の町に開館しました）への資金援助が含まれています。

そのホールの展示や遺物の多くは彼の戦争への嫌悪感と平和に対する情熱を表しています。こうした展示内容から、この博物館は、名前には平和という言葉は入っていませんが、実質、平和博物館と言えるでしょう。

こちらにより多くの情報があります。click here こちらのリンクからその博物

館の訪問をインターネット上で体験できます。here また、こちらもご覧ください。here　カーネギーと平和の宮殿についてのいくつかの興味深い記事が、ニューヨーク・カーネギー財団が発行している「カーネギー・レポーター」の 2019 年冬号に掲載されています。この号はこちらのリンクから無料でダウンロードできます。this link

スコットランドのダンファームリンにあるこの博物館に展示されているアンドリュー・カーネギーの蝋人形

アンドリュー・カーネギーと平和の宮殿の 100 周年記念式典について、そして INMP の貢献についての記事が INMP ニューズレターの 2013 年 5 月発行第 5 号 1 ページと 3～4 ページ、また、2013 年 11 月発行の第 6 号 4～5 ページに掲載されていますのでご覧ください。

ワシントン D.C.のアメリカ議会図書館でのローザ・パークス展示

新しい展示である「ローザ・パークス：彼女自身の言葉の中に」がワシントン DC のアメリカ議会図書館で 12 月 5 日から始まりました。展示期間は 2020 年 8 月までです。このアフリカ系アメリカ人の女性は 1955 年 12 月にアラバマのモントゴメリーで白人男性にバスの席を譲ることを拒否したということで最もよく知られています。彼女が逮捕され短期間牢獄に収監されたことはモントゴメリーバスボイコット運動が始まるきっかけとなり、その運動は 381 日間 続き、アメリカ合衆国連邦最高裁でのローザ・パークスの勝訴で終わりました。よく知られている話とは逆に、彼女がバスの運転手の指示に従うことを拒否した時、彼女の反抗的だが物静かな態度の裏に彼女は何十年もの間鍛え上げられてきた闘争精神を隠していたのです。彼女は 1930 年代から社会正義と人権のための闘いにずっと関わってきていたのです。この展示はこれまでほとんど公開されたことがなかった書簡や、文書、写真を紹介しています。それらは子ども時代から晩年まで続けた行動主義までローザ・パークスの人となりを詳細に伝えています。晩年、彼女は近代公民権運動の母として多くの人から尊敬されていました。この博物館の学芸員であるエイドリアン・キャノンと議会図書館の司書であるカーラ・D.　ハイデンのインタビューの 7 分間のビデオをこちらで見ることができます。here

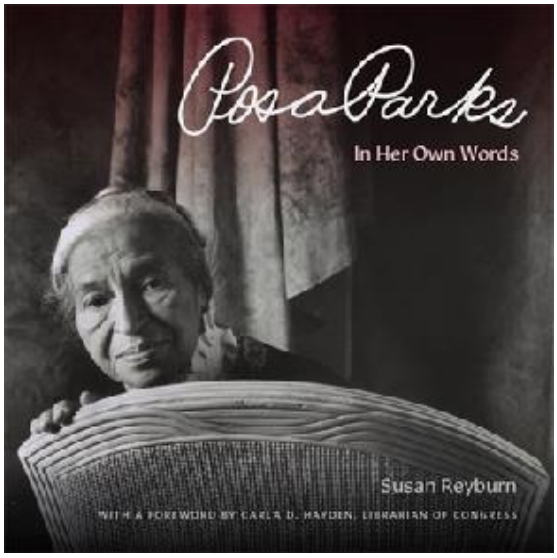
アメリカ議会図書館の新展示

展示資料の多くは議会図書館のローザ・パークス・コレクションから出品されたものです。このコレクションは 140 年に渡る、彼女の家系の歴史を網羅

しており、およそ1万点の資料から成っています。このコレクションについてのより詳しい情報はこちらをご覧ください。here この展示での展示物の多くはこちらのリンクで見ることができます。this link　資料の広範囲に渡るリストについてはこちらをご覧ください。this link　展示についての記事はこちらをご覧ください。click here

この展示に伴って、ローザ・パークスの新しい伝記が出版されました。この伝記は、彼女の私的な原稿と手書きの書簡、そして彼女のメモに基づいています。そのメモには彼女が逮捕された時のことや、人種差別で分離政策が行われていたアメリカ合衆国南部のこと、白人優越主義に対する子ども時代の抵抗についての彼女の思い出といったことに関する詳しい記述が含まれています。この本 The book にはローザ・パークス・コレクションからの100枚の写真も掲載されており、その多くは初めて出版されるものです。『ローザ・パークス：彼女自身の言葉の中に』はアメリカ議会図書館の上級編著者であるスーザン・レイバーンによって書かれ、ジョージア大学出版によって出版されました。

このニューズレターでは以前にデトロイトにあるローザ・パークスの質素な家を破壊から救うためにベルリンに再建したことについての記事が掲載されました。（2016年12月発行第17号3～4ページと2017年6月発行第19号の6～7ページの記事をご覧ください。）その家はその後アメリカ合衆国に戻り、ニューヨーク州北部の貯蔵施設に解体された状態で保管されています。こちらに更に詳しい情報があります。click here



スーザン・レイバーンによる新しい伝記の表紙

デイトン国際平和博物館の新しい常設展示

アメリカのオハイオ州デイトンで行われた、ボスニアでの戦争を効果的に終わらせたデイトン合意の24周年を記念し、デイトン合意についての新しい常設展が、昨年11月1日にデイトン国際平和博物館で始まりました。旧ユーゴスラビアで1992年から1995年までの戦争は、その性格から、第二次世界大戦後初の集団虐殺と認識された戦争でした。多くが戦犯として、旧ユーゴスラビア国際戦犯法廷で（1993年から2017年、ハーグにて）刑を受けました。1995年11月のデイトンで、アメリカ主導の下、世界は3つの交戦国を数週間の紛争解決の会合の席に着かせました。その結果、同年末にはデイトン合意にサインすることとなりました。

この常設展は、4 つのインタラクティブ・コーナー（説話、ビデオ、写真、音楽と教育的な図式）を通して、戦争の悲劇と、平和と和解への困難な道のりをたどることができます。詳細は、こちらからご覧ください。

読者の皆さんは、2005 年からはデイトン国際平和博物館として使用されている、19 世紀の美しい邸宅の歴史にも興味を持っておられることでしょう。旧アイザック・ポラック・ハウスは、アメリカの南北戦争後に建設された建物です。1974 年には、邸宅を取り壊しから守ってくれた、アメリカ合衆国国定歴史建造物にも指定されました。5 年後の 1979 年、邸宅は現在の場所へと移動しました。その経緯は、こちらからご覧になれます。

here.

シカゴ平和博物館共同設立者、マーク・ロゴヴィン(1946-2019)

マーク・ロゴヴィンが半世紀以上住んでいた街で 9 月 30 日に亡くなりました。彼はマージョリー・クレイグ・ベントン（前ユニセフアメリカ合衆国代表）と共にシカゴ平和博物館を共同で設立しました。彼は 4 年間この博物館(1981 年に開館)の館長を務めました。彼はこの博物館で最も大きな成功を収めた展示のいくつかを創り出す援助をしました。その展示は「忘れえぬ火」（広島と長崎の被爆者によって描かれた絵）、「平和にチャンスを」（ベトナム戦争に抗議する音楽と運動について）などでした。「平和にチャンスを」はオノ・ヨーコの支援を受けて開催されました。後に 1997 年から 1998 年に彼は偉大な俳優、歌手、平和運動家、公民権運動家であったポール・ロブスンの生誕百年を祝う全国的な運動を組織するのを手助けしました。そしてジョー・パワーズと共に、『ポール・ロブスン：再発見』（2000 年）を出版しました。

マーク・ロゴヴィンと仲間の芸術家で長年の友人であるペギー・リプシュッツの最近の写真(リプシュッツはロゴヴィンが亡くなる数日前に 100 歳で他界)写真提供:ミシェル・メリン・ロゴヴィン

生涯、ロゴヴィンは自分の住む地域でも、全国的にも、国際的にも、社会正義、公民権、平和のためのキャンペーンや運動に活発に参加していました。その活動には、南アフリカのアパルト

ヘイトに反対し、ネルソン・マンデラや他にもアメリカ合衆国のアンジェラ・デイヴィスのような政治犯を解放するための闘いも含まれていました。プロの才能ある芸術家として、彼は自分が立ち上げたり、支援したりしていた数多くの進歩的なキャンペーンのために政治的なメッセージを書いたバッジや横断幕を制作しました。ロゴヴィンは公共の場に芸術作品を設置することを促進した 1970 年代の「パブリックアートワークショップ」の創立者で指導者でした。彼は、パブリックアートに、特に屋外の壁画について興味を持っていました。メキシコシティで 1968 年に関わった作品から刺激を受けたことがきっかけでした。メキシコシティで、彼は有名なメキシコ人の壁画家、デイヴィッド・アルファロ・シクエイロスの最後の作品となった「地球上そして宇宙へ向けての人類の行進」（1971 年に完成）の制作を援助していたのです。

マーク・ロゴヴィンの仕事の真価について評価した追悼記事がいくつかの新聞や雑誌に掲載されました。以下はその例です。

People's World; Portside; Forest Park Review; Zimmerman-Harnett.

マーク・ロゴヴィンへの広範囲にわたる話題についての最も興味深いインタビューはこちらのリンク this link で読むことができます。このインタビューの中で彼はシカゴ平和博物館設立の発端についても説明しています。2018 年 3 月発行第 22 号のニューズレター4～5 ページに掲載された「シカゴ平和博物館の起源」もご覧ください。

ペギー・リプシュッツ（写真の説明参照）が 96 歳の時に撮影された彼女の人生と作品についての素晴らしい 6 分間のドキュメンタリービデオをこちらで見ることができます。here

芸術家として生涯、彼女の主な関心は「正義・平等・平和」にありました。

1981 年にシカゴのコロンビア大学でマーク・ロゴヴィンとパブリックアートワークショップによって制作された「平和の壁画」

ロサンゼルスの日系アメリカ人国立博物館での日系アメリカ人被爆者についての展示

ロサンゼルスのリトル・トーキョー地区にある日系アメリカ人国立博物館(JANM)で、1945 年 8 月に原爆が投下された時に広島か長崎にいた日系アメリカ人についての展示が 11 月 9 日に始まりました。この展示の題は「キノコ雲の下で：広島・長崎・原子爆弾」です。原子爆弾投下後 75 年目の年を迎えるにあたり二つの日本の都市と協力して展示を実施することになりました。会期は 6 月 7 日までです。この展示には広島平和記念資料館から貸し出された 30 枚の写真パネルや 3 月 1 日までは広島と長

崎の被爆者の所有物である 20 の遺物の特別展示も含まれています。また、バラク・オバマ大統領が現職大統領として初めて 2016 年に広島を訪問した際に折った折り鶴も展示されています。（写真参照）

これらの展示に JANM は、特に広島で被爆した日系アメリカ人に焦点を当てた展示パネルや写真を追加しています。

ロサンゼルスにある日系アメリカ人国立博物館

第二次世界大戦前は、日本で生まれた一世の移民の両親がアメリカで生まれた二世の子どもたちを教育のために日本へ送ることはよくあることでした。1945 年にはおよそ 15,000 人の日系アメリカ人が日本に住んでいたと見積もられています。日系移民の多くは広島出身だったため多くの子どもたちが親戚と住むために広島に送られており、そこで被爆することになりました。当時、広島には約 3200 人の日系アメリカ人が住んでいたと見積もられています。生き残ってアメリカ合衆国に帰ることができた人々はアメリカ合衆国の医学界では知られていなかった進行していく健康問題に直面することになりました。

この展示の開会式で、2 世と 3 世の日系アメリカ人被爆者の方々が経験を語り、この展示が若い世代に原爆の恐怖を教えることを希望しているということを述べられました。1 月 18 日には JANM は終日映画祭を行う予定で、原爆に関する世界的に評価の高い 3 本の映画が上映されます。この博物館が原爆に関する展示を行うのはこれが初めてです。この博物館は 1992 年に開館し、太平洋戦争中のアメリカ合衆国による強制収容所への日系人収容など、日系アメリカ人の歴史に関する資料を展示してきました。この展示についてこちらにより多くの情報があります。go here　こちらの 2 つのリンクもご覧ください。here　here この博物館についての情報はこちらをご覧ください。click here

バラク･オバマ大統領によって折られた折り鶴

核兵器廃絶の展覧会
カザフスタン

巡回展「あなたの大切なすべてのもの―核兵器なき世界への連帯展」が、昨年 10 月 1 日から 13 日まで、カザフスタンの首都ヌルスルタン（旧アスタナ）市の大統領図書館で開催されました。図書館と ICAN（核兵器廃絶国際キャン

ペーン）との共催で、創価学会インタナショナルが開催しました。この展覧会は、2012 年に初めて広島で開催され、それ以降 20 か国 90 都市で展示されています。カザフスタンは、21 番目の開催国でした。

開会式（展覧会のテープカットの様子）
（提供：Katsuhiro Asagiri/IDN-INPS）

この展覧会は（旧ソ連圏では初）、旧ソ連の主要な核実験の場、セミパラチンスク核実験場（カザフスタン北東部）の廃止 30 周年を記念しました。過去 40 年の間に、約 150 万ともいわれる人々が、456 回の核実験の影響により苦しみました。また今年は、中央アジア非核兵器地帯条約（セメイ条約）が発効して 10 周年を迎えます。2019 年、カザフスタン（核兵器廃絶への関わりで知られる）は、核兵器禁止条約を批准した 26 番目の国となりました。展覧会の開会式のスピーカーの一人は、長崎で祖母が被ばくした経験を述べた笠井達彦在カザフスタン大使でした。もう一人は、寺崎広嗣創価学会インタナショナル国際総局長でした。

悪名高いセミパラチンスクの閉鎖（1991 年）には、1989 年にカザフ人の有名な詩人で活動家のオルジャス・スレイメノフが設立した、国際的な反核兵器運動“ネバダ―セミパラチンスク（ネバダ―セメイ）”が主要な役割を果たしました。このような運動が旧ソ連で起こったのは、カザフスタンが初めてでした。

SGI の代表団は、クルチャトフにある国立核兵器センターの博物館や、核医学癌センター、セメイ（旧セミパラチンスク）にある解剖博物館など、核実験に関連したいくつかのセンターや博物館を訪問しました。解剖博物館は、放射能の「死の灰」が健康に与えた破壊的な影響を展示しています。詳細は、こちらのリンクからご覧ください。 this link. 日本語版は、こちらからどうぞ。 here.

中央アジア初の SGI と ICAN による展覧会
（提供：聖教新聞）

創立 30 周年を迎えた平和資料館 草の家（高知）

副館長：岡村啓佐

「平和の要求は絶対である　われわれはここに　平和資料館草の家の建設を決意する」1985.4.5（写真参照）から 4 年後の 1989 年 11 月 11 日、民立民営の『平和資料館・草の家』が高知市升形に誕生しました。運動の芽生えは 10 年前の「高知空襲と戦争を記録する会」（1979 年）に始まります。

草の家の誕生によって様々な創意ある取り組みが始まりました。「平和七夕まつ

り」「反核平和コンサート」「平和美術展」「平和映画祭」等です。1996 年には草の家が事務局を担って「ピースウエーブ」へと発展し今日に至っています。

「平和資料館・草の家」の命名は、「資料館」としての役割を「加害」「被害」「抵抗」といった歴史的事実を重視し平和をつくる原点としたいこと。草の家とは、草の根の「草」であり、民衆とか人民とかの意味とともに、大地に根を張った生態系の基礎となっている「草」をも意味します。

「加害」の歴史に向き合う調査では中国平和の旅、韓国平和の旅を 10 数回にわたって続けてきました。初代館長の西森茂夫氏は「“侵略された側“の中国の人々の声に耳を傾けることは、日本人としての良心を取り戻す最も原初的な行為であり、人間としての優しさを取り戻す行為であると思います」と記しています。

「被害」の事実を伝える活動は、高知空襲展から「戦争と平和を考える資料展」に発展させ、私たちの暮らす街が戦争と空襲によって多くの被害を受けた事実を次世代に伝える努力をしてきました。特に 2 代目館長の岡村正弘氏は、数少ない空襲体験被害者として、県内の小中学校を始め多くの地域で語り部を続けています。

「抵抗」は、侵略戦争に命がけで反対してきた高知の青年たちに誇りを抱き、掘り起こし継承することを重視してきました。中でも日本プロレタリア作家同盟高知支部結成に参加し反戦詩「生ける銃架」や「間島パルチザンの歌」の詩を発表した槇村浩の顕彰にも力を入れてきました。

草の家は、「平和運動」を反戦、反核の運動に限定するのではなく、反公害、自然と共生をはかる運動、町並み保存など幅広い市民の交流の場として取り組んだ 30 年でした。

今、日本政府は過去の侵略戦争と植民地支配を否定し戦争を肯定・賛美するなど著しい右傾化を強めています。憲法改悪、民意を無視した辺野古新基地建設の強行など歴史に逆行する行為を決して許すことはできません。草の家は創立 30 年を迎えるにあたって、これまでの「加害・被害・抵抗」に加えて「創造」を加えました。東アジアの人々と連帯して平和な未来を築くことを誓って新たなスタートを切りました。

2020 年に京都・広島を会場に開催される、第 10 回国際平和博物館会議（2020 年 9 月 16 日～20 日）にはぜひ高知まで足をお運びください。

「草の家 30 周年記念行事(左から岡村正弘館長、金英丸氏、山根和代)

ピースおおさか特別展「ポーランド・グダンスク市第二次世界大戦博物館展

Poland First to Fight 第二次世界大戦勃発の地・ポーランドの戦い」

ピースおおさか　専門職員　駒井詩子

80 年前の 1939 年 9 月 1 日、ドイツ軍がポーランドに侵攻したことにより第二次世界大戦が勃発しました。9 月 17 日には東部からソ連軍が攻め入り、ポーランドは戦場と化しました。ポーランド・グダンスク市にある第二次世界大戦博物館は、大戦勃発 80 年を記して、世界数十か所で企画展を実施し、日本での会場がピースおおさかとなっています。この企画展は、ピースおおさかおよび第二次世界大戦博物館、ポーランド広報文化センター、駐日ポーランド共和国大使館との共催事業となっています。

第二次世界大戦博物館は、バルト海に面する湾岸都市グダンスクに 2017 年 3 月にオープンしました。グダンスクは

第二次世界大戦博物館のチラシ

第二次世界大戦博物館は、バルト海に面する湾岸都市グダンスクに 2017 年 3 月にオープンしました。グダンスクは第二次世界大戦勃発の地でもあります。常設展示は、約 5,000 ㎡の広さがあり、これは世界の歴史博物館の中で最大規模の展示となっています。展示内容としては、「戦争への道」・「戦争の恐怖」・「戦争の長い影」と題する 3 つのブロックから構成されており、ヨーロッパと世界を背景にしたポーランドの戦争体験を展示しています。博物館にはポーランドはもちろん、ソ連やナチス・ドイツについての展示をはじめ、戦時下のポーランドの街を再現したエリアなどもあり、ホロコーストや原爆についての展示があります。

本特別展「Poland First to Fight」は、14 枚のパネルで構成されています。ドイツとソ連の二つの大国に挟まれたポーランドを取り巻く情勢から始まり、大戦勃発前の 8 月 23 日に調印されポーランドの分割が組み込まれた独ソ不可侵条約、戦闘が始まった 9 月戦役、ドイツ支配下そしてソ連支配下におけるポ

ーランド、ポーランド市民の恐怖、戦線におけるポーランド軍、地下活動、そしてワルシャワ蜂起、ホロコーストなどの内容が説明されています。各パネルには当時功績などを残した人物が紹介されています。展示内容の全体としては、戦時中いかにポーランドが苦難の道を辿ったかを強調している印象が見受けられますが、私たち日本人にとっては馴染みが薄いこともあり、地球の裏側で起きていた戦争の悲惨さを知るうえでは意義深い内容であると思われます。

特別展に関連して、9 月 15 日には特別講演会「第二次世界大戦とポーランド」を開催しました。講師としてポーランドを中心とした東欧地域研究における第一人者であり、北海道大学および早稲田大学の名誉教授である伊東孝之氏を招き、日本とポーランドの地理的な違いに触れながら、戦火に見舞われた歴史のなかでポーランドの人々が生き抜いた 6 年間を中心に講演いただきました。

また、来館者アンケートでは「ポーランドで起きていたことを全く知らなかった」、「この展示を見るために来館した」、「ポーランドにおける戦争の恐怖を知ることができて勉強になった」などの感想もあり、展示を見た来館者から比較的高い評価を受けています。昨年度に開催した特別展「カティンの森事件―22,000 人のポーランド人将校の行方―」に引き続き、世界で起きた先の大戦に関する事象に関心を持つ人々が多いということが分かりました。

最後に、筆者は第二次世界大戦博物館・グダンスク工科大学共催（ポーランドの文化・国家遺産省、外務省、科学・高等教育省後援）の第 1 回ヤン・コヴァレフスキ中佐記念賞の外国人部門を受賞しました。特別展「カティンの森事件」の企画が、日本におけるポーランド史の広報活動に対して成果を挙げたとして評価を受けました。授賞式は 2019 年年 9 月 28 日にポーランド・グダンスク市の第二次世界大戦博物館で行われました。（※ヤン・コヴァレフスキ中佐記念賞：ヤン・コヴァレフスキはポーランド軍歩兵中佐、言語学者、暗号学者であるとともに、国に尽くしたポーランドの偉大な英雄であるといわれています。この賞は、彼の名前に冠して、顕著かつ革新的な業績を挙げたポーランド人および外国人に授与されます。）

以上のことから、今後もピースおおさかは戦争の記憶を伝え、平和の発信基地になるという使命のもと、日本そして世界の戦争に関する様々な企画を行い、その役割を果たしていきたいと考えています。

「9 月 28 日に開催された授賞式のようす」

WILPF100 年史展:
ベルリンの反戦博物館にて

ベルリンの反戦博物館で始まった平和の歴史についての新しい企画展は、1907 年から 1935 年までの女性の市民の

反戦の声と、婦人国際平和自由連盟（WILPF）の設立について展示しています。「パンと薔薇」－反戦の声―と名付けらえた展覧会は、昨年 11 月 8 日に始まり、今年 2 月 2 日まで開催されます。これは、非暴力の抵抗の歴史というシリーズで、2008 年から同博物館が企画・展示している、第 21 番目の展覧会です。WILPF の起源は、第一次世界大戦のさなかの 1915 年 4 月から 5 月、ハーグで行われた国際女性会議にあります。婦人国際平和自由連盟（WILPF）の名前は、100 年前の 1919 年 5 月にチューリッヒで開催された、第 2 回目の会議で公式に採択されました。

展覧会の開会式では、展覧会主催者のクリスティアン・バルトフとドミニク・ミーティングが、1919 年に WILPF 会議で採択された重要な決意と計画を強調しました。特に、新しい国際連盟のための政治的なアイディアや、子どもと女性の権利等の広範囲に及ぶ社会的な要求についてです。この会議は、ヴェルサイユ条約で熟考し宣言された、最初の国際集会でした。その評決は、諸条件に対する圧倒的な告発となりました。チューリッヒ会議に参加した女性たちは、孤軍奮闘ではなく、活発な非暴力抵抗の伝統を意識していたことを、この展覧会は明らかにしました（その代表として例えば、レフ・トルストイとヘンリー・ディヴィッド・ソロー）。展覧会は WILPF の他にも、戦争の予防・撲滅のための運動や団体で、指導的な役割を果たした女性たちのことも取り上げています。

スピーチ（英語）は、こちらのリンクからダウンロードできます。 this link

展覧会の全体の詳細は、こちらのリンクからご覧になれます。 this link.

詳細と 2019 年 WILPF100 年史展の会議の様子は、こちらからどうぞ。

go here.

アルメニア虐殺展覧会、エーリヒ・マリア・レマルク平和センター：ドイツ、オスナブリュック

トルコのアルメニア文化遺産の”虐殺”の衝撃についての巡回展が、エーリヒ・マリア・レマルク平和センターで、12 月 5 日オスナブリュック市の市長のあいさつで開会しました。展覧会のタイトルは、「1915 年～2015 年」です。続いて、アルメニア人の虐殺と建築が、ドイツ・アルメニア協会の議長によって紹介されました。虐殺の以前は、トルコの大部分の生活が、多民族で、アルメニアの建築は多くの通りや場所を飾り特徴づけていました。約 5,000 のアルメニア系学校、教会、修道院が国中にあったと思われます。加えて、数えきれない家や店、商売がアルメニア系コミュニティに属していました。著作や写真、22 の巨大なボードを展示し、破壊と衰退、かつて建てられ、1915 年の虐殺でそのほとんどを失うこととなった、トルコに点在したアルメニア建築遺産のさまざまな別の使い方（教会がモスクへ等）を伝えています。また展覧会は、何千というアルメニアの場所がトルコ名へと変わったこと（例えば、「アルメニア」という言葉自体が教科書や公的な施設から抹消されたこ

と）を通じて、アルメニアのアイデンティティー抑圧についても触れています。この展覧会は、一般の人々向けに構成されているため、紹介のパネルは国外追放をされた人々の証言や、虐殺以前にもあった破壊、そして虐殺の間のアルメニア人の苦しみや死を語っています。展覧会の詳細とイラスト入りの説明（ドイツ語）は、こちらからご覧になれます。

アルメニア人虐殺についての常設展は、あらゆる角度において、1995 年にアルメニア共和国のエレバンに開館した、アルメニア人虐殺博物館にあります。2015 年、虐殺から 100 周年に、博物館を拡張し新しい常設展を開設しました。詳細はこちらからご覧ください。this link

博物館の広範囲に及ぶオンライン展覧会は、こちらからどうぞ。here

アメリカのアルメニア虐殺博物館（AGMA）はオンラインの博物館です。こちらからご覧になれます。here

エレバンの記念博物館にある、“灰の中から立ち上がる母子”の記念碑（2002 年）（提供：Serouij Ourishian）

2019 年ドイツ平和写真賞の展覧会: ドイツ、オスナブリュック

2019 年 10 月 20 日から 2020 年 3 月 8 日まで、オスナブリュックの博物館街にある文化歴史博物館（Kulturgeschichtliches Museum）は、ドイツ平和写真賞の候補者の写真展を開催しています。国際的なこの平和写真賞は、平和都市を宣言しているオスナブリュック市と、市のフェリックス・ショーラー・グループによって 2018 年に創設されました。2019 年 10 月に最初の賞が授与されました。2013 年以降、フェリックス・ショーラー・グループは、「フェリックス・ショーラー写真賞」として、プロの写真家に毎年賞を授与してきました。6 つのカテゴリー（例；肖像、風景、フォトジャーナリズム）には、現在「平和」のテーマが追加されています。5 人の候補者の写真は、背景と平和のコンセプトとともに、こちらからご覧ください。here　賞の詳細は、こちらからご覧になれます。here

（また、2019 年 9 月 INMP ニュースレター28 号の 14 頁（英語版 12～13 頁）、オーストリアの「アルフレート・フリート写真賞」についての記事もご参照ください。）

プラハ　平和のあしあと

チェコの首都プラハの重要な 17 か所を巡る「平和のあしあと　非暴力による抵抗」は、2018 年に開始されました（2018 年 9 月 INMP ニュースレター24

号の 15 頁（英語版 11～12 頁）の記事参照）。現在この「平和のあしあと」は、各所の解説をイラストや引用、地図や行き方とともに、72 頁に及ぶブックレットの形で出版されました。各所について、より詳細な英語での情報のリストも加えられています。このブックレットは、訪問者とのウォーキングツアーにも同行可能な、オンドジェイ・スコヴァジュサ氏によって書かれています。彼への連絡は、こちらからどうぞ。

ondrej@praguepeacetrail.org またこちらもご覧ください。 website

「平和のあしあと」では、母国チェコへのナチス占領に勇敢に抵抗した、有名な政治ジャーナリストのミレナ・イェセンスカーの自宅も巡ります。

平和のためのグローバル・アート・プロジェクト 2020

参加者が、平和的な地球規模の共同体への考えを表現したり創作したりと美術交流できる、第 14 回平和のための国際美術交流ビエンナーレが 2020 年 3 月から 4 月に開かれます。ビエンナーレの成果として、4 月の最終週には、何千という人々の善意や平和のメッセージが同時的に地球を包むことでしょう。これまで、7 つの大陸から 95 か国、15 万 5 千人がプロジェクトに参加しました。200 に及ぶ地域のコーディネーターが、世界の各地域で運営を手伝ってくれました。参加申し込みは 2 月 29 日締切です。詳細はウェブサイトか、peace@globalartproject.org へご連絡ください。

グローバル・アート・プロジェクト 2020 のユース・ポスター

秋の京都と広島へようこそ

プログラム委員長 藤岡 惇

22 年前、12 年前に引き継ぎ、京都の立命館大学の地で 3 度目のお世話をできることを幸せに思います。私は、平和と幸福と健康という 3 つの価値を三位一体的に実現するためにはどうしたらよいのかを研究し、講義してきました。最近は宇宙の軍事化、とくに宇宙核戦争がおこったばあい、地球はどうなるかを研究しています。

数日前に会場の下見に行きました。一つの建物を借り切って、映画の上映や実演、展示、懇親パーティなどのできるスペースが確保できそうです。また大学という場を利用できますので、世界各国の若者たちが交流し、非業の死を遂げた人々の記憶を継承し、次世代につなげるための企画を実現させたいと念じています。

私どもの国際平和ミュージアムがオープンしたのは 28 年前です。年間来館者数４－５万人（うち半分が小学生・中学生）という壁を超え、「理想的な平和ミュージアム」に進化するため、現在、抜本的な改修を計画中です。この会議が、私どもに新しい知恵とアイディアを授けていただく場になることを願っています。

新しい企画やとりあげるべきテーマなどがあれば、お知らせください。これにもとづき、プログラムを組み立てていきます。プレゼンテーションの申し込みの方もよろしくお願いします。

第 26 回日本平和博物館会議が 11 月 21 日、INMP 2020 協賛を決定

2019 年 11 月 21・22 日、横浜の地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）で第 26 回日本平和博物館会議が開催されました。

日本平和博物館会議は 1994 年に立命館大学国際平和ミュージアムの提唱に基づいて広島で設立されました。以来、加盟

「あーすぷらざ」は 1998 年に開館されました

館のローテーション・システムにより毎年２日間の会議とワークショップが開催されています。現在、会議には比較的大きな平和博物館 10 館が加盟しており、年間総訪問者数は 400 万人以上になります。会議に先立ち、各博物館から協議題や聴取事項が提案され、その年の当番館が詳細な資料をまとめ、有意義な議論を行なっています。

編田館長によるミュージアム・ツアー

今回の議題の一つは、下の写真のようなモノクロ写真をカラー化する最新技術をどう考えるかという問題でした。

出席者の一人は、この技術が白黒写真では認識できなかった事実に気づかせるという点を評価しましたが、多くの博物館は、「第一次資料としてのオリジナリティ」の観点からこの技術の安易な導入に慎重であることがわかりました。

会議では、各博物館が若い世代に記憶を伝えるために取り組んでいる活動について紹介しました。安斎は、INMP 2020 のメイン・テーマが「次世代への記憶の継承と平和のための博物館の役割」なので、こうした日本の平和博物館の活動を紹介することは有意義であると述べました。

最後に安斎が提案した「INMP 2020 に日本平和博物館会議として協賛する」という議題が審議され、満場一致で承認されました。

会議の後、地球市民かながわプラザへの約 90 分のガイド付きツアーが行われ、展示室だけでなく収納スペースも訪れる機会を得ました。

立命館大学国際平和ミュージアム 故・中村哲博士への追悼声明を発表

立命館大学国際平和ミュージアムはアフガニスタンで銃撃されて死亡した中村哲博士に対して、次のような追悼声明を発表しました。

中村哲博士（ペシャワール会）の死を悼む

伝えられるところによれば、ペシャワール会現地代表の中村哲医師が、2019 年 12 月 4 日、自ら復興のために献身してきたアフガニスタンの地で何者かに銃撃され、急逝されました。立命館大学国際平和ミュージアムは、その死を悼むとともに、こうした理不尽な暴力に対して深い憤りを表明します。

国際平和ミュージアムは、中村医師らの活動に早くから注目し、2003 年 5～6 月には、衣笠キャンパスおよびびわこ・くさつキャンパスにおいて、特別展「井戸も掘る医者～ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画～」と記念講演会を開催、中村医師にも立命館大学での講義にご出講いただきました。

中村医師は、パキスタンやアフガニスタンでの難民の多くが大旱魃によって発生しているという認識に基づき、生活用水と農業用水を確保するために大規模な灌漑事業に取り組み、2010 年には総延長 25 kmをこえる用水路の完成によって約 10 万人の農民が暮らしていける基盤を築きました。

2003 年の特別展に当り、中村医師が当ミュージアムに寄せたメッセージの中では、「武力や政治スローガンは旱魃対策になりません、平和の基礎は、相互補助に生存の保障です。私たちは

『生きること』、そのことに希望を見ます。猛々しい軍隊のライフルや頭上を飛ぶ米軍機をよそに、今日も黙々と作業に励みます」と述べられています。企画実施に際して安斎育郎館長（当時、現名誉館長）は、「人が人に手をさしのべ、いのちを紡ぎ出すペシャワール会のめざましい活動は、私たちに人間としてのありようを考えさせてくれるでしょうと」と述べました。

私たちは、いま、いのちを紡ぎ出すために懸命に献身された中村哲医師のいのちが暴力によって奪われたことに衝撃を受けるとともに、こうした暴力を生み出す社会のあり方に目を向け、世界の平和博物館と共同して平和の尊さを人々に訴えるとともに、かけがえのない命を豊かに育む文化の発展のために努力することを目指します。

2019 年 12 月 5 日

ミュージアム・ロビーで開かれた中村医師に関する緊急展示

編集後記

この通信は、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、山根和代、安斎育郎、キヤ・キムによって編集されました。

また日本語版の翻訳は、赤松敦子さん、狩俣英美さん、山本美穂子さん、山根和代が担当しました。この通信は、INMP の個人と組織をつなぐ重要な場です。また INMP の会員ではない方が世界の平和博物館の活動を知る上で、大変重要です。

以前発行された通信は **INMP の新ウェブサイトで読むことができます。**

http://tinyurl.com/INMPMuseumsForPeace/

INMP の通信は年に 4 回発行されますが、定期的に読みたい方は、メールアドレスを次のメールにお知らせ下さい。inmpoffice@gmail.com

2020 年 3 月に発行される次号に投稿したい方は、2020 年 2 月 15 日までに原稿をお願いします（英文で 500 語以内、日本語の場合 1000 字以内、写真 1-2 枚）。直接英語による原稿を書くことに困難がある場合には、以下の INMP 日本事務局にご相談ください。inmpoffice@gmail.com

INMP コーディネーターのお知らせ

INMP の会費と寄付をお願いします

INMP の財政はみなさまの会費と寄付によって成り立っています。私たちは今年 9 月 16-20 日に第 10 回国際平和博物館会議を開催する予定で、しっかりとした財政基盤を築く必要があります。これまですでに会費を支払った方には感謝申し上げます。まだの方は、よろしくお願いします。

ペイパルの方は、次のところに送金して下さい。

INMP PayPal (business account)
Name: INMP OFFICE
INMP email address:
inmpoffice@yahoo.co.jp

そうでない方は下記にご連絡下さい。
inmpoffice@gmail.com

＊日本の方は、次へ振り込むようお願いします。

年会費　2,000 円
※送金先：INMP 郵便局振込用口座
記号 14480 番号 49799181
名前 アイエヌエムピー
他金融機関からの振込の場合
店名 四四八（ヨンヨンハチ） 店番 448
普通預金 口座番号 4979918